

トピックス
1. 播州日誌 総社の節分
2. 南国土佐を後にして 第19回



福留経営労務管理事務所
姫路龍馬会
保険労務士・行政書士
福留章

龍馬通信

No. 75

2024年3月号

啓蟄～春分の候

しあわせ時間

小さなものほど
早朝動き出すのが早い
そして鳥たちのさえずりが
やかましいほど盛んになる
昨日を無事に生き延びた喜び

春の気配が増すほどに
虫たちが待ちきれずに這い出して来る
鳥たちはそれを求めて
大地をついばむ

春風 春嵐 光る風
日脚がのびて 下草が萌え
こころ和らぐ日々
春めくから 春らんまんへ

大自然の演出は
かくも厳肅に かくも爽やかに
春を 忍び込ませる

大地に生気がみなぎり
虫は這い出 鳥は歌い 蝶は舞う
魚は水をけって 飛び跳ねる

生きとし生きるもの
みな喜びを声や体に表わして
平和を 生を 謳歌する

「しあわせ時間」
神様がくれた 格別の時間
至福の時刻（とき）
それは不意にやってきて

長くはとどまらない
指の間からするりと抜け落ちていく

あなたは「しあわせな時間」に
気づいているだろうか
うっかりと見逃しているのでは

しあわせの時間をしっかりと
胸に抱きしめて
やさしい涙を 流してみては

さあ一緒に感じてみよう
実はしあわせ時間が
常にあなたを つつんでいることを
奇跡のかたまりのような私たち
そんな不思議の中で私たちは生きている

奇跡としか考えようのない大宇宙
あなたは その宇宙の果てに
何を見るのか

それはあなた自身の 過去・現在・未来
そしてそれは間違いなく
あなた自身の「しあわせ時間」





播州日誌

総社の節分



ご縁があって、ここ十数年来 2 月 3 日の節分には、射立兵主神社（播磨の国総社）で、福男として豆まきをさせて頂いている。コロナで 2 年ほど中止されたが、昨年に続き今年も斎行が決まった。どうも長く出仕していると、節分に豆をまかないと新年を迎えたような気にならない。やはり節分・立春と日めくりを繰らないとどうも落ち着かない。3 時半からの本殿での祭典に合わせて 3 時前には総社に入る。昆布茶のおもてなしを受けて、別室で袴（かみしも）を着けてもらう。紋服の上に着けると様になるのだが、スーツの上に着けるのでどちらにしても中途半端ではある。ほとんどの人が紋服を持っていない。

3 時半、太鼓の合図で本殿に上がる。手を清め懐紙で手をぬぐう。本殿に上がって自由に席に着くのだが、ここでちょっとコツがある。来賓の列の後ろの列つまり前の方に座る。実は豆の前に餅を撒くのだが、毎年全員にはあたらぬ。折角だから餅もまきたいので前の方に席を占めるのである。

宮司一拝に始まり祝詞奉奠（ほうてん）では、今年の福男、福女の氏名を住所とともに読み上げる。およそ 60 名。巫女さんの舞があり、玉串奉奠と続く。本殿の正面と左右の側面がざわざわとざわついていて、祭典が進むにつれ、そのざわめきが大きくなっていく。本殿の内外で、緊張感が高まりつつある。寒いのに大変だと思う。子供たちはベストポジションを心得ていて、そこで待ち続ける。宮司一拝で祭典終了。

まず正面、壇上から宮司と福娘が豆をまく。「福は内」「福は内」総社では伝統的に「福は内」だけで「鬼は外」とは言わない。これにはれっきとした「謂われ」がある。正面で 4~5 回豆がまかれた後、一般の私たちが撒く番になる。まず餅を撒く。「ここに入れて」「こっちこっち」「おっさん、こっちへほうらんかい」と乱暴な人もいる。撒き終わったら本殿中央へ戻って豆を補給。それを 4 回 5 回と繰り返す。大きく放ったり、近くの人や袋に入れてあげたり。集まった善男、善女 700 名（新聞報道）に福男、福女が今年の福を授ける。歓声と怒号（？）の中、心を込めて豆をまく。「まめ（豆）に暮らせよ、福よ来い」「まめ（豆）に暮らせよ、福よ来い」。善男、善女が波のように左右に揺れる。みんな必死の形相、中にはあきらめ切った表情の人。なるべく多くの人に豆を取ってもらおうとこちらも必死。あっという間に、用意した豆が底をつく。何とも言えない安堵の気持ちと満ち足りた幸福感が交錯する。「今年 1 年、世界中が平和で豊かな 1 年でありますよう」。記念撮影の後、袴を脱いで「直会（なおらい）」と続く。今年も健康な体と豊かな心でご奉仕できた。何よりの幸せである。

2024. 2. 4

「もう一度 初心に戻り 再確認」

播州赤穂 D 社。第 133 回安全衛生委員会の席上で、令和 6 年度安全標語の投票結果の発表があり、決定した。D 社では、11 年前の 9 月に発生した重大事故を契機に、安全で衛生的な職場環境づくりに着手。委員会の充実や安全パトロール、ヒヤリハットなどに取り組みました。特に委員会の究極の目標を「重大事故の防止」と定めて今日までに 133 回の委員会を開催、社内の社員教育とも絡めて、単なる机上の空論にならない実効性のある取り組みを進めてきたのです。

今回の委員会では、「腰痛予防」の動画による指導教育、ヒヤリハットを見える化して、そのビフォー・アフターをカラー写真で確認するなど、解りやすく委員が職場に帰ってフォローアップしやすい工夫をしている。また外国人雇用の関係で、回覧や議事録を多言語化し問題意識の共有を図っている。会議の中で、生産部で実施した「労働安全について」の教育訓練の報告があった。内容は過去の労災事故やケガの経緯を説明し、いかに不安全行動が多いか、少しの注意で防げた事案があったかを解説し、労働安全のためにルールを守ることがいかに肝要

であるかの理解を深めた。効果測定の小テスト（5問）を実施。「労働安全について」というタイトルで感想文の提出を求めた。予想に反して素晴らしい作文や私見が続出、正直驚きを隠せなかった。外国人の安全意識も向上しており、日本人労働者と認識を共有することの可能性を確認することが出来た。

一例をあげる。『焦り、怒り、憂い、遠慮、驕りの「あいうえお」を常に意識しながら落ち着いて作業をします。』また外国人は母国語で、「今日の授業を通じて、労働安全が本当に重要であることがわかりました。すべての仕事において労働災害を避けることは常に優先事項です。そのために私たち一人一人が労働安全のルールを守り、自分自身だけでなく同僚や友人を守りたいです。」という感動的なものもありました。安全委員会の「労働安全」に対する役割を再確認して取り組みを進めてまいりますという指導者の力強い決意表明で議事録を締めくくっています。指導者の能力、実行力もさることながら会社挙げての取り組みが評価されます。D社の無災害記録は217日、I社351日、K社175日、S社483日。休業4日以上リセット。無災害記録の継続と、各社の無事故・無災害を心から祈念いたします。



2024. 2. 24

涙と流血 ウクライナの戦火消えず

ロシアのウクライナ侵攻から2年目の朝。歳月は流れ季節は巡ったけれど戦火は消えることなく東・南部戦線の攻防は激しさを増している。78時間で首都陥落そして終戦というロシアの思惑は外れ、ウクライナの徹底抗戦により、大統領も暗殺の危機を脱して陣頭指揮を執り、世界に正義の戦争をアピールした。NATOはウクライナ支援を打ち出しアメリカを中心とした反ロシア包囲網を構築する。初戦の段階ではウクライナの善戦が伝えられ、旧領土への反攻も実行されたが、現在は大勢力のロシアが再び優勢に立っている。報道によればそれぞれの犠牲者の数が発表されているが、一般市民と兵士の正確な数字は不詳とされている。

戦争が長期化するにつれ両国の国民に厭戦ムードの高まりがあり、その背景には不公平な徴兵制度と兵役の長期化に対する不満が大きいと言われている。

ロシア、北朝鮮の反米包囲網も不気味な動きを始めている。民主主義の危機ともいわれる。周辺国での超右翼の台頭は、民主主義の弱点をさらけ出している。一体正義はどこにあるのか。ロシア優勢のまま戦争は続き終戦の糸口さえ見つからない。国連の無力化と形骸化は目を覆うものがあり、その機能はマヒしたまま、時代遅れの

ものになりつつある。抜本的な解決方法はないのか。むなしく核の脅威にさらされ、ついには核使用によって地球が減びるのを目撃することになるのか。2年目の朝はいつもと同じように明けたが、かの地では戦時下の朝の始まりである、悲しみの涙は尽きることなく、失命への流血が繰り返される。人類の愚かさ嘆く暇もない。絶望の淵に私たちは立っている。一かけらの良識がかろうじて地球滅亡の危機を救っている。反プーチンの象徴ともいわれる、反政府活動家ナワリヌイ氏が収監先の刑務所で急死した。プーチンの関与が噂される中、母親は当局から



「秘密の埋葬」を強要されている。一条の光があるとすれば、専制と強権を嫌う反プーチンの声が3月の大統領選挙に向けて、SNSなどを通じて拡大する気配が高まっていることだ。ウクライナの「独立と正義」は世界中の民主主義を信じる人々の為にも、勝利しなければならない。

2024. 2. 25

～南国土佐を後にして～

第19回 「東京編」 酒とバイトと小指の思い出

最初から数えると十指に余るバイトを経験した。人生いろいろというけれど、大学がロックアウトで閉鎖され立ち入り禁止、ノンポリ※の私はいい気になってアルバイトで稼ぐにしくはなしとばかりバイトに明け暮れた。ピヤホールのウェイターから始まって、バッテリーから鉛を取り出す仕事。兄の勤める会社の宿直のバイト。繁忙期（11月から12月、年の暮れ）には、佃煮の折り詰め（歳暮用）の配送の手伝い。野村佃煮という老舗の佃煮屋（京都）があってその下請けをしていた。提供された食材をおせちの様に決められたマスに詰め込む仕事。昼過ぎ出来上がった折り詰めに2トン車に積み込んで出発。京葉道路、首都高速などを經由して野村の東京営業所に配送納品する。どうしても夜間の仕事になるので食事が出る。かつ丼や親子丼が多かったが本当にうれしかった。

2年から4年生まで何かと便利だったのだろう宿直や配送の助手などよく使ってもらった。3年生の冬には昼間の仕事として30人から40人のパートのおばさんを仕切るパート長のような仕事がまわってきた。君しか頼める人がいないんだよ、とかなんとかおだてられ軽く受けてしまう。事務的な仕事はしないが現場は任される。例の佃煮の折り詰めの仕事。悪戦苦闘する。何しろ40代のおばさん、なかなかいうことを聞いてくれない。例えば食品を扱う作業となると「盗み食い」が起こる。知らんぷりして栗やイモ、豆やするめを口にしているのだ。指輪等は必ず外してくださいと指示して、罵声を浴びる。盗み食い禁止と言ってそっぽを向かれる。食材の持ち出しを防ぐために、ポケット検査をするという「触りたいんやろ」とくる。ぶよぶよの身体に触りたくないはと反発する。奇策に出た。上司に相談して仕事の前に時々、イモや栗（二等品）など好きなように食べてくださいと伝達する。喜んで食べるけれど、仕事に盗み食いされるよりは被害が少ない。車内販売と称して栗きんとんや芋きんとんの販売もした。何となく効果が出て被害の程度が軽減した。日にちが立つに従って親しく寄ってくる人もありお菓子の差し入れもあった。中にはかなりの美人がいて遠くからそれを見て癒やされることもあった。

閑散期には配送の助手や、船橋市内のキャバレーのボーイのバイトをした。酔った客は馬鹿だから調子に乗ってチップをくれる。女の子の前でカッコつけているのである。注文の洋酒やビールを運ぶのが主な仕事。一番つらいのは閉店後の清掃作業。酔っぱらいの尻ぬぐい、たいがい汚してくれている。バイトにはつらさの何倍かの楽しみがあった。ホステスさんが競って酒をおごってくれた。やきとり、焼き肉、居酒屋など。こちらは貧乏学生だから専ら驕られる方に回っていた。口説かれたこともあったが、一応まじめだったのでそれはおことわりした。今考えれば、据え膳食わぬは男の恥とやらで、もったいないことをしたと反省しきり。

ある時少し年増の姉さんから「学生さん、プレゼントよ」と言って小さな包みを渡された。帰りの道すがら開けてみたら、なんと女性の生理用品が入っていた。顔が紅潮するのがわかったし胸がどきどきした。と言いながら下宿まで持って帰ったのだから男の心理は解らない。どうゆう意味だろうと兄に相談したら「何でもないよ、単にからかわれただけ」と素っ気ない。深い意味を感じて悶々とした1週間を過ごしたが、謎は謎のままお蔵入り。もともと酒飲みだから、キャバレーでのバイトは向いていたのだろう、毎日大人の世界を垣間見るようで楽しかった。バイトで覚えた一つの特技がある。佃煮の折り詰めは5段重ねてビニールひもで十文字に束ねる。折が割れないように力加減がいる。それを1日数百個しぼるのだからスピードも要求される。今でも新聞や本などの束を作るときには役に立ち皆から重宝されている。

一つ一つのアルバイトには思い出があり、泣き笑いがある。楽しいことばかりではなかったけれど、その一つ一つが人生経験となって今でも何かしら役に立っているような気がする。楽天家の私は将来の夢や勉強することをしっかりと忘れて、バイトで稼ぎ、その稼ぎで酒を飲む毎日。両親や兄弟姉妹には申し訳ないと心で詫びながら、日々酒に明け暮れていた。

※ノンポリ（nonpolitical）：政治的な問題に関して無関心であること

【紙面の都合により社労士がゆく、土佐のしば天は休載しました】